

小島ゆかり ◎歌人

辻原登 ◎作家

長谷川 權 ◎俳人

## 六曲一双『瓜坊の巻』

昨年十月十二日に東海大学湘南キャンパスで湘南連句座談会が開かれた。この催しでは、三人の選者の「発句」「脇」「第三」に続けて参加者が句を付け、連句の楽しさを味わいながら全十二句を巻き上げた。

### 発句に動きをあらわす

長谷川 ただいまから第十回湘南連句公開座談会を開催します。今回は「瓜坊の巻」と題して、六曲一双の歌仙を巻いていきます。

おなじみとなりましたが、表の発句、脇句、第三は小島ゆかりさん、辻原登さん、私、長谷川權の三人で詠みました。続く第四句以下を会場の皆さんに付けていただきます。その中から僕が五、六句選び、最終的な一句を小島さんと辻原さんに選んでいただきます。さっそくですが、今回の発句を詠まれた小島さんに、その心をお話しいただきたいと思います。

小島 今年の開催は秋か冬と言われていたので、いろいろ考えていました。これまでの発句は、柏餅の巻、照柿の巻など、落ち着いたものが多いんですね。なので、一度動きのある発句にしてみようかと思いました。湘南連句も十回を迎え、この三人も若干齢を重ねてきました(笑)。そこで体を動かそうという思いも込めて、瓜坊の一目散や山の雨と詠みました。

### ●第十回東海大学湘南連句

#### 六曲一双『瓜坊の巻』

##### 【表六句】

発句 〈秋〉	瓜坊の一目散や山の雨	小島ゆかり
脇 〈秋〉	マツタケツアアのバス乗り遅れ	辻原登
第三〈秋月〉	桃源の村にほがらの月をみて	長谷川權
第四 〈雑〉	左岸に投げる紹興酒の瓶	山城むつみ
第五 〈冬〉	荒星に手ぬぐひかぶりもらひ風呂	稲葉光
第六 〈冬〉	くしやみひとつでをんな忘るる	長井はるみ

##### 【裏六句】

初句 〈雑〉	蒼天の飛行機ひとつ静まりて	倉敷茂
第二〈夏恋〉	ひまはりかかへとびだす彼女	小島若菜
第三〈雑恋〉	戦ひにつかれた妻をいやすオレ	竹田信弥
第四 〈春〉	川辺に積まれる若草の船	小島若菜
第五〈春花〉	「アネモネ」と君が言ふ花もつ忘れた	北原慎也
挙句 〈春〉	見上げた空につばくらめ舞ふ	寺田幹太

瓜坊はご存じのように猪の子供で、秋の季語です。猪は田畑を荒らすという害もある動物ですが、瓜坊はコロコロしていて、親の後について歩く姿がとても可愛らしい。ところが山に雨が降ってきて、さあ大変！一目散に短い足で駆け出していくところであります。

長谷川 まるでどこかで見ってきたような感じですね。小島 たまたま兵庫県加西市で見かけた風景なんです。長谷川 僕は芦屋にいたことがあるのですが、そこでも我が物顔に町を歩いているのを見かけたことがあります。瓜坊の由来は、瓜のような縞模様があるからだと思います。

辻原 小島さんの句を見やすく、瓜坊は食ったらうまいだろうな、と思いました(笑)。僕も神戸に四年ほど住んでいたことがあります、すぐそばの山から猪がよく下りてきていました。とにかく、食ったらうまいだろうなと、まず考えました。

そこで思ったのが牡丹鍋です。牡丹鍋というと、なんととっても松茸です。猪料理の本場は丹波篠山で、松茸が一番うまいのもここだそうです。今年は松茸が豊作だそうで、ツアーバスに乗って松茸と猪を食べべ